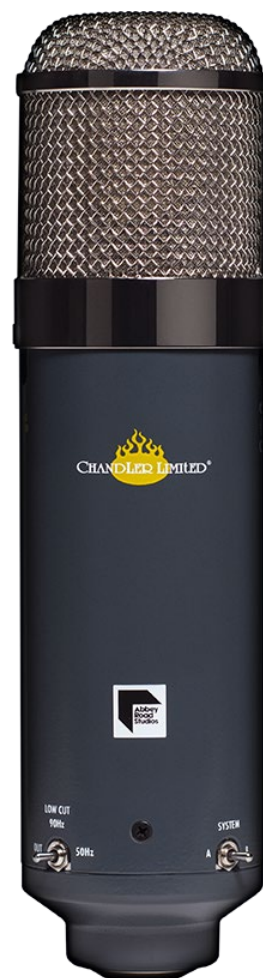


CHANDLER LIMITED

TG MICROPHONE

USER MANUAL



(株) アンブレラカンパニー

www.umbrella-company.jp

* この取扱説明書は株式会社アンブレラカンパニーが正規に販売する製品専用のオリジナル制作物です。

無断での利用、配布、複製などを固く禁じます。

はじめに

TG MICROPHONE

CHANDLER LIMITED TG MICROPHONE をご購入いただきありがとうございます。あなたは今、EMI / Abbey Road Studios のオフィシャル機材を手に入れました。

“ステレオサウンドの父”である Alan Blumlein による 1930 年代の革新的で豊かなイノベーション、EMI 社のはじめてのリボンマイクロフォン、そして“Blumlein テクニック”などからおよそ半世紀、Chandler Limited と Abbey Road Studios は 2 つ目の EMI オフィシャルのマイクを発表します。それが TG MICROPHONE です。

Chandler Limited の創設者でチーフデザイナーの Wade Goeke により設計された TG MICROPHONE は、ソリッドステート/ラージダイアフラムコンデンサーマイクであり、本体にオンボードされた歴史的な EMI TG12410 マスタリングコンソールである Tape Equalizer、3 つの TG アンプリファイア、そして専用の外部電源を特徴としています。

マイクに搭載されている Tape Equalizer とモディファイアにより、ダウンストリームの作業時やより後のプロダクション作業時にはなく、サウンドを根本から調整することを可能にしています。このオールインワンのアプローチにより信号回路上に存在する電気回路をより減らすことができ、オーディオソースからの高品質なシグナルを受け取ることができます。

TG MICROPHONE のシステムは、・マイクロフォン・4 ピンマイクケーブル・パワーサプライ式・ショックマウントサスペンション式・スクリュードライバー式・木製のマイクボックスにて構成されています。

TG MICROPHONE は、アメリカ・アイオワ州の Shell Rock にある Chandler Limited により丁寧にハンドメイドされています。究極のアナログサウンドのため、スルーホール実装にて組まれています。

Chandler Limited はアメリカ製の製品に誇りを持っています。気に入っていただけたなら嬉しいです！

History

1967年、Abbey Road と EMI Central Research Laboratories チームが出会ったことにより、Abbey Road Studios の TG12345 Mark I コンソールのサウンドと柔軟性に大きな変化をもたらしました。

1968年の11月に Abbey Road Studio の第2スタジオにインストールされ、Shadows の8トラックレコーディングにて初めて使用された新しいトランジスタ/ソリッドステートのコンソールは、初期の REDD 真空管コンソールから飛躍的に進歩しました。

EMI TG12345 コンソールは、The Beatles のラストアルバムであり、初期の作品より著しくリッチなサウンドになった“Abbey Road”のサウンドシェイプに大きく関わっています。“Here Comes the Sun”, “Come Together”, そして“Something”などのサウンドは、EMI TG12345 無しでは大きく違うものになっていたでしょう。

そして TG12345 コンソールのテクノロジーから、テープからディスクへの転送時やディスクのカッティング時のマスタリングコンソールとして、その他テープ間の転送に関する様々な要望から、今では伝説となっている EMI TG12410 トランスファーコンソールが誕生します。

現在でも EMI/Abbey Road Studios で使用されており、EMI TG12410 トランスファーコンソールとそのサウンドは一般に公開される事はありません。



クイックスタート

ショックマウントについて

注意：フェルトを傷つけずにマイクをショックマウントにマウントするには、まずサスペンションリングがマイクの頭が入るのに適した幅に広がるまで、マウントのラッチを後方か閉じる反対方向に広げて下さい。

接続について

1. **注意：** TG Microphone と一緒に使用するすべての外部プリアンプの 48V ファンタム電源を切ってください。
2. 4 ピンマイクケーブルを使用して、TG Microphone を付属のパワーサプライユニット (PSU) に接続して下さい。Chandler Limited から提供されるケーブル、パワーサプライ、AC アダプターのみを使用して下さい。
3. 標準的な 3 ピン XLR マイクケーブルをつかって、TG Microphone の PSU アウトプット・ジャックとマイクプリアンプのインプットを接続します。接続する前にプリアンプの 48V ファンタム電源をオフにすることを忘れないで下さい。
4. TG Microphone のパワーサプライを付属の AC アダプターに接続し、AC アダプターを電源コンセントに接続して下さい。

電源を入れる

1. TG Microphone とパワーサプライの接続がすべて完了したら、PSU の前面にある電源スイッチをオンにして電源を入れます。
2. 電源が正常に入ったら、TG Microphone の LED と PSU 前面の LED が光ります。TG Microphone のヘッドバスケットはサウンドソースのカプセルを調整することにも使われます。
5. **注意：** AC 電源が入っている間は 4 ピンマイクケーブルをマイクから抜かないで下さい。 取り外す場合は、TG Microphone の PSU の電源を切り、パワーサプライの LED が完全に消えるのを待ってから、4 ピンマイクケーブルと AC 電源アダプターを取り外して下さい。

NOTE: 3 ピン XLR オーディオ出力は、電源を落としてから抜き差しして下さい。

ウォームアップ

TG Microphone は最適なパフォーマンスを得るために、ウォームアップに 3-5 分ほど電源を入れてそのままにしておくことを推奨します。

電源を切る

まず PSU の電源を切り、PSU の LED はが完全に消えるのを待ちます。その後マイクと PSU または AC 電源アダプターとの間の 4 ピンケーブルを外します。

NOTE: TG Microphone を使用しないときは、電源を切ることお勧めします。

操作方法

デュアルトーンシステム

マイクの下部右側にデュアルトーンシステム (SYSTEM と書かれたスイッチ) が搭載されています。これにより A または B の 2 つのオプションを選ぶことができます。システム A と B は、マイクのインプット構造を変化させ、音源やキャプチャーした音のキャラクターに影響を与えます。

System A: リッチなハーモニクスが特徴で、よりストレートでまさに TG プリアンプといったキャラクターです。様々なソースに適しており、システム B よりも比較的色彩付けが強いです。

System B: システム A よりクリーンで、色付けとハーモニクスが少ないキャラクターが特徴です。システム B は TG Microphone の SPL (Sound Pressure Level) が高いモードでもあり、約-6dB 低いレベルで動作します。

システム B は SPL 能力が高いにもかかわらずボーカル、アコースティックギター、その他の低 SPL ソースを含め万能に使用できるモードです。

システム B かつ パッドが有効であれば、極端に高い SPL の音源にも使用する事が可能です。エレキギター/エレキベースキャビネットやキックドラムなど、SPL の高い音源の収録には、システム B での使用をお試しください。



Tape Equalizer

TG Microphone 専用の EMI Tape Equalizer は、ソースからサウンドを調整することができます。Tape Equalizer の調整はマイク本体で直接することができます。(Tape Equalizer はテープシミュレーターではありません。)

歴史的な背景 : TG Microphone に搭載されている Tape Equalizer の回路は、60 年代後半と 70 年代の歴史的な EMI TG12410 マスタリングコンソールから継承されています。独自の NAB/IEC テープイコライ

ザーを使用しており、異なる規格のテープに記録されたマスターテープをマシンの再調整なしに正しく再生することができました。

Tape Equalizer のセッティング

Tape Equalizer のセッティングはマイクの後ろにあるスイッチで選択できます。以下の5つのセッティングから設定します:NAB/IEC 7.5ips または 15ips, FLAT, IEC/NAB 7.5ips または 15ips が選択できます。

TG Microphone の Tape Equalizer セクションの命名、そしてラベルは歴史的な EMI マスタリングデスクから取られています。

マイクの背面、左から右に時計回りにテープイコライザーの設定を#1-#5、フラットは#3 とします。



Tape Equalizer のカーブ

それぞれのテープイコライザーのプリセットは特徴は以下です。

1. NAB/IEC 7.5ips: 低音域の強調
2. NAB/IEC 15ips: 高音域の強調
3. FLAT: 比較的ナチュラルなセッティング
4. IEC/NAB 15ips: 低音域と高音域の強調
5. IEC/NAB 7.5ips: 低音域と高音域を更に強調

それぞれの Tape Equalizer のプリセットは、以下に説明する low-cut filter により更に調整ができます。

Low Cut

TG Microphone に搭載されている Low Cut フィルターは単なるランブルフィルターやハイパスフィルター以上のもので、TG Microphone のテープイコライザー設定を変更するためのものです。

Low Cut フィルターを有効にするトグルスイッチは本体の前面下の左にあります。Low Cut フィルターには 2 つの選択可能な周波数があります：50Hz, 90Hz または Out (バイパス) を選択できます。

TG どちらかのローカット設定が有効になっていると、5 つのテープイコライザーの設定とは別の設定が追加され、システムごとに合計 10 種類のカーブが使用可能になります。

Low Cut のトグルスイッチが Out に設定されていると、フィルターは無効、バイパスされ、テープイコライザーやサウンドソースに影響を与えません。



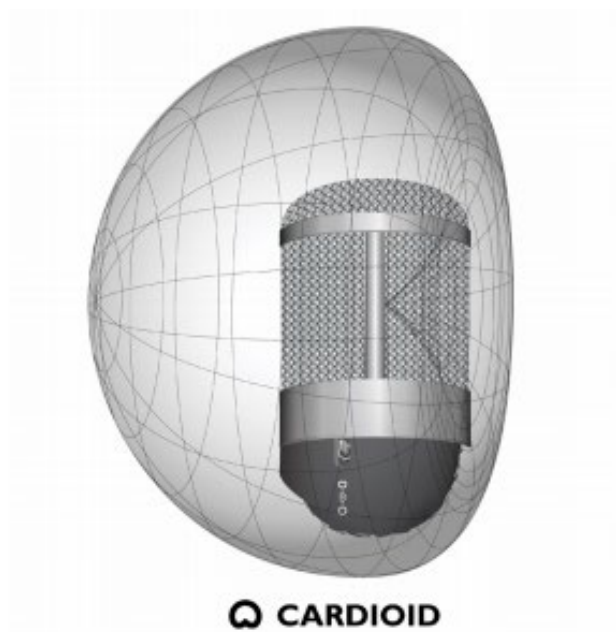
指向性パターン

TG Microphone の指向特性はユーザーによって選択することができます。カーディオイド、またはオムニの 2 つの指向特性を選択可能です。どちらもマイク本体上部のトグルスイッチで、付属のスクリュードライバーを使って変更します。



カーディオイド

インゲン豆のアイコンで表される単一指向性です。マイクの前面からのサウンドを優先し、側面と背面からの音は優先されません。



NOTE: カーディオイドに設定時には近接効果が発生します。サウンドソースがマイクに近いほどローエンドが強調されます。

TIP: カーディオイドに設定時、アコースティックギターなどサウンドソースの近くにマイクを配置する必要がある場合、または小規模な環境で自然に近接効果が発生する場合は、Tape Equalizer の以下の設定を試してみてください。

- ・ Tape Equalizer 設定#2 (NAB/IEC 15ips) ローカットオンまたはオフ
- ・ Tape Equalizer 設定#3 (FLAT) ローカットオンまたはオフ
- ・ Tape Equalizer 設定#4 (IEC/NAB 15ips) ローカットオンまたはオフ

TIP: マイク背面からの入力を極力避けたいときは、カーディオイド設定を使用します。

オムニ

円のアイコンで表されるオムニ、または無指向性のパターンです。カプセルの全側面から音を拾い上げ、方向により区別されることがありません。



○ OMNI

オムニパターンの設定時には、近接効果は発生しません。しかしローエンドとレベルの低下がオムニパターンの設定時には発生します。オムニパターンの設定時に更にローエンドが欲しい場合は、以下の低音域を強調するテープイコライザーのセッティングを試してみてください。

- ・ システム B、Tape Equalizer 設定 #1 (NAB/IEC 7.5 Ips) ローカットオンまたはオフ
- ・ システム A、Tape Equalizer 設定 #4 (IEC/NAB 15 Ips) ローカットオンまたはオフ
- ・ システム A、Tape Equalizer 設定 #5 (IEC/NAB 7.5 Ips) ローカットオンまたはオフ

TIP: ストリングス、アコースティックギター、ピアノなど自然なローエンドの表現が好まれる素材の場合は、オムニパターンの使用をお勧めします。

Pad

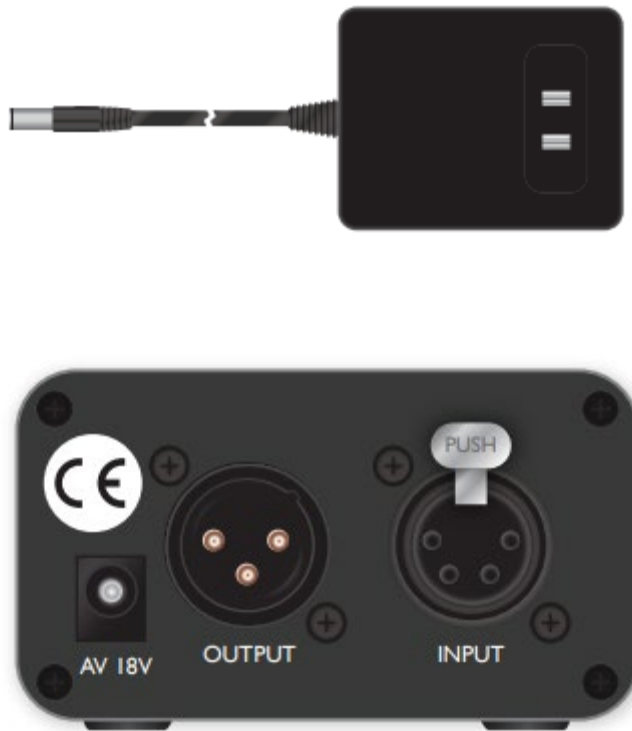
マイク本体上部にある Pad のトグルスイッチで、マイクの入力感度を 10dB 下げる事ができます。パッドはスイッチを下にするとオンになり、付属のパターン設定用スクリュードライバーで変更します。



TIP: カプセルに過大な入力がかかっている場合は、パッドを使用して下さい。キックドラム、ベース、エレキギターのカビネットなどの高い SPL のサウンドソースには、システム B を使用し、パッドは必要に応じて選択します。

電源と接続

注意： TG Microphone は 48V ファンタム電源を使用しません。TG Microphone を接続する前に、必ずプリアンプの 48V ファンタム電源をオフにしてください。TG Microphone は専用のパワーサプライユニット（PSU）と特別に配線されたケーブルによって動作します。製品に付属している Chandler Limited の PSU システムと関連コンポーネントのみを使用して下さい。



マイクのインプット

PSU のリアパネルに、4 ピンのメス型 XLR コネクタがあります。付属している 25' (762cm)4 ピンマイクケーブルを、このジャックを介してマイクから PSU に接続します。

注意： 特別に配線された Chandler Limited が提供する 4 ピンマイクケーブルのみを使用して下さい。社外品を使用すると、TG Microphone がダメージを受ける恐れがあります。



マイクのアウトプット

PSU のリアパネルにはスタンダードな 3 ピンのオス型 XLR コネクタがあり、この出力ジャックは外部のマイクプリアンプへマイクレベル信号を送ります。TG Microphone の出力インピーダンスは 200Ωです。

AC 電源

付属の 4 ピン XLR ケーブルを PSU と TG Microphone の間に接続してから、AC 電源に接続して AC 電源をオンにしてください。

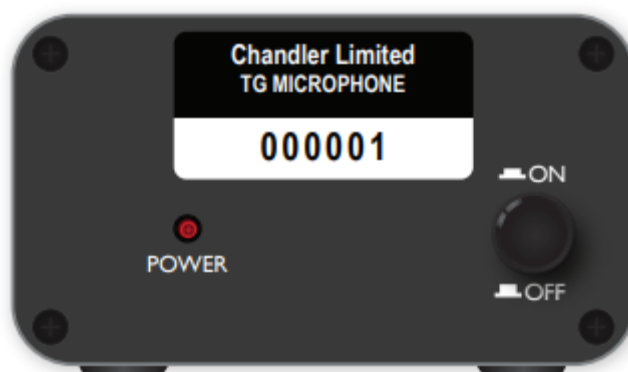
注意： PSU の電源がオンになっているときは、両端の 4 ピン XLR マイクケーブルを外さないで下さい。

PSU のリアパネルにある AC 電源ジャックに、付属の AC 電源アダプターを接続します。AC 電源アダプターは適切なコンセントに接続します。

注意： AC 電源アダプターを PSU に接続せずに、コンセントに接続したまま長時間放置しないで下さい。Chandler Limited が提供する AC アダプターのみを使用して下さい。

パワースイッチ

マスター電源スイッチは PSU のフロントパネルにあります。マイクと PSU の間のすべての接続が完了したら、マスター電源スイッチを押して AC 電源をオンにします。



正常に接続が行われて PSU の電源が入ると、PSU のフロントパネルの LED と TG Microphone のバスケット内の LED の両方が点灯します。

メンテナンス

保管方法

注意： 取り外す前に、マイクシステムの電源を切り PSU の LED が完全に消えるのを待ってから、TG マイクシステムからケーブルと AC アダプターを取り外します。

TG Microphone を長時間使用しない場合は、付属のプラスチック製ダストカバーと木製ケースにマイクを収納して下さい。マイクは常に室温環境で保管して下さい。

NOTE: マイクを日頃使用しない場合は、付属のプラスチック製ダストカバーを使用してカプセルを更に保護して下さい。

